

11/4~11/5

## 公共交通のあり方を考える 「まちの交通勉強会」開催

**地** 域住民の外出や移動を支えるバスやタクシーなどの公共交通を今後どのように維持していくかを考える「まちの交通勉強会」を開催しました。

11月4日（木）は洞爺湖温泉地区と月浦地区、5日（金）は洞爺地区と虻田地区の計4か所で、町民約25人が参加しました。勉強会では、町の公共交通の現状や抱えている課題、今後、どのように公共交通を維持していくかなど、さまざまな話し合いが行われました。



公共交通について一緒に考えた勉強会

11/2

## 児童が防災の知識学ぶ とうや小が一日防災教室

**と** うや小学校（山下文人校長）の一日防災教室が行われました。町の担当職員による講話などが学年別に行われ、5・6年生は照明を落とした体育館で段ボールベッドの組立訓練に参加。懐中電灯と水が入ったペットボトルで用意した即席ランタンの明かりを頼りに作業を進めました。

ベッドを完成させた児童たちは「今日の経験を家族にも教えてください」との担当者の言葉にうなずいていました。



暗い中で段ボールベッドを組み立てた児童

11/10

## 町のPRに活用 マルナカ総業がマスク寄贈

**マ** ルナカ総業（渡部順司代表取締役）が、町にオリジナルマスク150枚を寄贈しました。印刷されているロゴは洞爺湖温泉観光協会の公式ロゴで、マスクデザインは同社の土産物店「サイロ展望台」の店長で渡部代表の弟、浩二さんが考案。町のPRのため、町職員に着用してほしいと寄贈しました。

渡部代表取締役は「コロナ禍の中でできることを考えていました。町の宣伝に役立ててほしいです」と願っていました。



マルナカ総業から寄贈されたオリジナルマスク

11/9

## かわいい我が子を健康に はつらつパパママ子育てセミナー

**健** 康福祉センターさわやかなのはつらつパパ・ママ子育てセミナーが行われました。母子5組が集まり、全員で歌に合わせて手拍子を打つなどして楽しく交流しました。

施設職員が子どもを預かる間、母親たちは歯の健康についてのセミナーに参加。講師が、菓子やジュースの食べ過ぎが歯に及ぼす影響などを説明し、母親たちは虫歯予防の方法について理解を深めていました。



セミナーに参加し、歌を楽しむ母子

11/18 商工業の発展に貢献  
福島浩二さん北海道産業貢献賞受賞

**商** 工業の発展に貢献したとして福島浩二さん（虻2区）が北海道産業貢献賞を受賞しました。

福島さんは2005年3月31日「企業組合あぶた」の設立時から、代表理事として同組合の運営や組合員の経営安定に務め、同組合の組織化の推進や商工業の発展に貢献。

福島さんは「協力してくれた組合員の皆さんに感謝しています。受賞できたことをうれしく思います」と話しました。



産業貢献賞を受賞した福島浩二さん

11/15 地域住民のために  
生命保険協会苦小牧協会が物品寄贈

**生** 命保険協会苦小牧協会（合田守会長）が洞爺湖町社会福祉協議会（福井政吉会長）にノートパソコン1台、机1台、ミーティングチェア5脚、デスクワゴン2台を寄贈しました。

同協会は1991年度から、会員会社の従業員から寄せられた善意を道社会福祉協議会から推薦された各地域の社協に福祉関連物品として寄贈しています。合田会長は「役に立ててうれしい、ぜひ有効活用してください」と目録を手渡しました。



福井会長（右）に目録を手渡す合田会長（左）

11/19 騒音や振動の軽減に期待  
道道洞爺湖登別線に信号機設置

**道** 道洞爺湖登別線、伊達信用金庫洞爺温泉支店前の交差点に信号機が設置されました。

国道230号三豊トンネルの開通以来、道道の交通量が増加し、住民からは騒音や振動に対する苦情などが寄せられていたため、2014年から町や地元自治会など関係団体が公安委員会に信号機設置を要望していました。

信号機の設置により通行車両のスピードダウン、騒音・振動などの軽減が期待されます。



新しく設置された信号機

11/19 町内唯一の高校存続を願って  
虻田高校を存続させる町民会議が寄付金

**虻** 田高校を存続させる町民会議（木村利正会長）が、虻田高校（廣川雅之校長）に10万7千円を寄付しました。同団体は、2006年に発足した町民有志の団体を母体とし、道教育委員会に同校の存続を働き掛けるなど活動を続けています。今回は、町民から募った協賛金から寄付金を捻出しました。

木村会長は「虻高の存続のために使ってほしい」と願い、寄付金を託しました。



寄付金を手渡す木村会長（右）